

# 社会科学の 研究方法入門

京都大学附属図書館学習サポートデスク

教育学研究科D2 呉江城

2020年10月27日

留学生学習サポート強化週間



# 目次

---

- 1 研究方法の概論
- 2 質的調査技法
- 3 質的データの分析技法
- 4 量的調査技法
- 5 量的調査の分析方法

# 1 研究方法の概論：質的研究と量的研究

	質的研究	量的研究
目的	現象の質的理解（数量で表現できないような）や説明、あるいは解釈。現象を説明するのに、データ（本人の会話や観察など）そのものに語る。	現象の量的理解（質的情報は数量化し、できないものは採用しない）をめざす。要素と要素間の関係や蓋然性（生起率や確率）で表現する。仮説の検証や予測をおこなう。
着眼点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロセスを重視する</li> <li>・物事が起こる文脈を重視する</li> <li>・研究対象者の発言や態度を尊重しながら、記録をとる</li> <li>・データに忠実な態度を維持する</li> <li>・構成主義</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すでに起こったことをアンケートや統計などを使って数量化する</li> <li>・統計的に妥当な検証や、妥当な解釈を与える</li> <li>・実験室などで被験者を人工的に観察したり、質問紙に記入してもらったり、反応を数量化してデータとする。</li> <li>・実証主義</li> </ul>
問いの立て方	What? How?	Why?
解釈や理解にける時間と手続	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丁寧</li> <li>・深い</li> <li>・反省的アプローチ</li> <li>・真実とは何かという命題</li> <li>・人間の主観性という領域への配慮</li> <li>・ラポールや倫理について敏感</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロトコル化</li> <li>・正確で冷静な分析</li> <li>・手続重視</li> <li>・エラー入力回避技法</li> <li>・信頼性</li> <li>・一般化可能性の探求</li> </ul>

# 1 研究方法の概論：調査方法と分析方法

## 質的研究

### 調査方法

- インタビュー
- 参与観察
- エスノグラフィー
- ワークショップ

### 分析方法

- テキスト分析
- 会話分析
- 内容分析
- 言説分析
- コーディング

## 量的研究

- 全数調査
- 標本調査
- 有意抽出
- 無作為抽出
- 多段抽出
- 層化抽出

- 統計的推定
- 相関分析
- 回帰分析
- 対応分析

# 1 研究方法の概論：データのタイプ

研究者が作るもの	文字テキスト	<ul style="list-style-type: none"><li>• フィールドノート</li><li>• インタビュー記録</li><li>• アンケート</li></ul>
	非言語的情報	<ul style="list-style-type: none"><li>• 写真</li><li>• ビデオ</li><li>• DVD</li></ul>
すでに作られたもの	文字テキスト	<ul style="list-style-type: none"><li>• 日記、手紙、自伝、伝記</li><li>• 小説、詩</li><li>• 古文書、議事録</li><li>• 新聞、雑誌</li><li>• 電子メール、ブログ、ウェブサイト上の記載</li></ul>
	非言語的情報	<ul style="list-style-type: none"><li>• 写真</li><li>• 映画</li><li>• テレビ</li><li>• 絵画</li></ul>

# 1 研究方法の概論：文献資料の4分類

## 一次的

## 二次的

### 記録的 (同時的)

- 執筆者がそのとき作成したもの
- 法廷記録
- 国会議事録
- 国勢調査
- 新聞記事
- 契約書
- 手紙
- 録音
- 映画

- 一次的・同時的源泉から転写したもの
- 調査補佐員による現地調査に基づいた研究報告
- 実際の文書を使った歴史的研究
- 国勢調査のデータに基づいた統計調査
- 他人の通信文を使った調査研究

### 報告書 (回顧的)

- 執筆者が出来事の後で作成したもの
- 個人的日記
- 自叙伝
- ある施設への訪問記

- 一次的・回顧的源泉から転写したもの
- 日記や自叙伝を用いた調査研究

## 2 質的調査技法：インタビュー

- インタビューのメリット：主観的意味世界を明らかにする
- **種類**
  - ① 構造化インタビュー
  - ② 半構造化インタビュー
  - ③ 非構造化インタビュー

## 2 質的調査技法：半構造化インタビュー

- 問題中心インタビュー（問題中心、対象志向、プロセス志向）
- 焦点化インタビュー（焦点を合わせたインタビュー）
- 専門家インタビュー
- エスノグラフィック・インタビュー



## 2 質的調査技法：参与観察

- 定義

- 調査者自身が調査対象集団や組織、地域などの現場に入り、そのメンバーとなつて生活をともにしながら、多角的に観察する調査方法のことである。

- メリット

- 当事者も気づいてないような行動や意識や人間関係を捉えることができる
- 調査対象者は観察されていることをあまり意識せずに済むし、調査者は出来事を調査対象者にとっての意味に即して理解できる。

## 2 質的調査技法：アクション・リサーチ

- ・ 定義

- ・ 調査者が調査対象集団と共同して具体的な問題を解決したり、状況を改善することを目的に行動を起こし、そのプロセスと成果を共有しつつ行う調査法である。

- ・ 区別

- ・ 参与観察における調査者と調査対象の関係が、前者が後者を調査するという一方向的な性格をモノのに対し、アクション・リサーチは問題解決に向けて調査者が対象集団と共同作業を遂行する双方向性を特徴とする。

## 2 質的調査技法： ワークショップ

### • 定義

- ①同じ場に集まり、話し合ったり、作業を共同で行うなどの経験を共有することにより、**新しいものの見方**などを知り、
- ②お互いの立場の違いや、それぞれに**異なる考え方が生まれる背景**を理解し合うプロセスをもち、
- ③共有できること、相容れないことを確認しながら、社会を共有する者としてとるべき**道筋を選択**する
- ④さらに選択されたことに対して、**自らが主体として実践していく動機**を高める。

### • プロセス

- 発見・気づき・基本の学習⇒理解・専門的学習⇒調整・決定⇒行動。

### • 領域

- 芸術や文化、企業などの人材研修の場合でも活用されているが、社会学との関連では、まちづくり、地域福祉、学校教育、社会教育などの分野でよく用いられる。

# 3 質的データの分析技法

- ライフヒストリー分析
- 会話分析
- 内容分析
- 質的データのコンピュータ・コーディング
- 言説分析

# 4 量的調査技法の基本

尺度	可能な計算方法	使用できる集計方法	例
名義尺度	全くない	度数、相対度数、最頻値	性別
順序尺度	上下の比較のみ	①+中央値、累計度数	成績
間隔尺度	足し算、引き算	②+平均値、範囲、分数	体温
比例尺度	すべての四則計算	③+変動係数	学習時間

調査方法	長所	短所
面接調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>複雑な質問もできる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コストが大きい</li> </ul>
留置き調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>回収率が高い</li> <li>プライバシー守れる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪問のコストが大きい</li> </ul>
郵送調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>コストが小さい</li> <li>プライバシー守れる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>回収まで時間かかる</li> </ul>
集合調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>コストが圧倒的に小さい</li> <li>短時間で回収できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>統計的推測のために有効な標本設計が行いにくい</li> </ul>
電話調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>コストが小さい</li> <li>ランダム番号を使えば名簿に依存しない調査ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>統計的推測のために有効な標本設計が行いにくい</li> </ul>
インターネット調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミスが点検できる</li> <li>調査員によるバイアスがない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>統計的推測のために有効な標本設計が行いにくい</li> </ul>

## 4 量的調査 技法：調査方法の選択

# 4 量的調査技法：対象の抽出方法

- **無作為抽出**：調査対象の範囲を明確に定義しなければならない「2000年10月1日、日本国内に居住する、50歳から59歳からの日本人女性」
- **手順**：明確な範囲の人々全員に通し番号をつけ、サイコロや乱数表、その他の道具を用いて全く無作為な番号をつくりだして、その番号に該当する者を調査者として抽出すればよい。（しかし、対象が多い場合は不適用）
- **多段抽出**：①いくつかの市区町村を抽出し、②その中から1人ひとりの調査対象者の抽出という具合に、段階を踏んで無作為抽出を行う
- **系統抽出**：①調査対象者の候補の名簿からあらかじめ何人おきに抽出すると決めておき ②最初の一人を無作為抽出した ③決められた間隔で調査対象者を抽出する（大規模に適用）
- **層化抽出**：①いくつかの属性についてあらかじめ母集団と同じ比率になるように標本の層を設定し、②それぞれの層の中で無作為抽出を行う

# 5 量的調査 の分析方法

- データの記述：標本の頻度、平均値、標準偏差、中央値など
- データによる推測：標本から母集団へ
- 仮説検証  
h0：「性別と給料の高さは無関係である」  
h1：「性別と給料の高さは関係ある」
- 有意水準  $p < 0.05$



## おすすめの本

- 谷富夫, 芦田徹郎編著 ; 技法編, プロセス編, 2009, 『よくわかる質的社会調査』, ミネルヴァ書房.
- K・F・パンチ、2005, 『社会調査入門 : 量的調査と質的調査の活用』, 慶應義塾大学出版会.